

## 町役場職員を対象に、クレーム対応研修を開催

住民対応の重要性を認識し、接遇の基本やクレーム時の具体的な住民対応の手法を学ぶことを目的に、大城久美子氏（コンサルティングオフィスおおしろ）を講師に迎え、「平成23年度西原町クレーム対応研修」（町主催）を2月8日に実施しました。研修には各部署から職員が参加。実際に役場で起こったクレーム事例を取り上げ、そのときの対応の問題点や、どう対応すべきだったのかを話し合い、今後の接遇の向上と住民に優しい行政サービスの提供を目指しました。



## 発達障がい児の支援と、保護者との関わりを学ぶ

発達障がい児の理解を深め、支援を強化することを目的に「平成23年度発達支援研修会」（町主催）が、2月17日に町中央公民館で開催され、母子保健に関わる保育士や幼稚園教諭などが参加しました。

研修会では、本町の乳幼児健診などで発達相談を受けている臨床心理士の仲本弘子氏が、町の現状を説明。「発達障がい児の対応は、親と周りの人が気付きを共有し、共に育てること。」と語りました。

また、沖縄県発達障がい児支援センターの保育士、玉城珠美氏が専門的な立場から講演を行い、「親が障がいを受け入れるには時間が必要。日ごろから信頼関係を構築して、苦労や悩みを聞き、共感し、尊重することが必要。」と述べました。



を受け入れるには時間が必要。日ごろから信頼関係を構築して、苦労や悩みを聞き、共感し、尊重することが必要。」と述べました。

## 「西原町で大地震が起きたら」講演会で災害の恐ろしさを学ぶ

子育てに関する基本的な知識や技能を学習することを目的に、各小中学校PTAが展開する家庭教育学級の合同講演会が、2月20日に町中央公民館で開催されました。講演会では「もし、西原町で『巨大地震・津波』が起きたら」と題して、琉球大学理学部の中村衛准教授（写真）が講演しました。

中村氏は「沖縄は地震が少ないという認識を持つ人が多いが、震源の分布では日本の7分の1の地震が沖縄周辺で起こっている。」と沖縄の特徴を紹介。「地震の揺れは地盤の性質によって違う。西原町の中でも海岸に近いところは揺れが大きくなる傾向がある。」と分析しました。また、「西原町の地形は陸前高田市に似ている。陸前高田市の平坦な地はすべて津波がきた。海拔5mは浸水地域と考えて対策を考えるべき。」と津波対策の必要性を指摘しました。



# まちの話題

## 笑いで子育てを考えよう！お笑い子育て講演会を開催

お笑いライブや専門家のトークを通じて、子育てに関する悩みをともに考えることを目的に「爆笑うちな～子育て」と題した講演会（町主催）が2月11日、町中央公民館で開催されました。

パパが育児を楽しむ方法などを講演した東浩司氏（NPO法人ファザーリングジャパン理事）は、「男は子どもができる体感ができないので、育児に『パパスイッチ』の点灯が必要。『パパスイッチ』入っていますか？」と独特の表現で参加者に問いかけ、「世の中のお父さんが笑顔で育児をがんばってほしい。」と呼びかけました。

お笑いライブではウーマクーボーイズとハンサムスの2組が漫才を披露。子育てアンケートの結果をもとに、妊娠中の妻と飲みについて帰ってきた夫が言い合うエピソードなど、世の中の子育て事情を笑いで伝えました。

「子育て解説トーク」と題した出演者のフリートークでは、助産師の百名奈保さんを加えて産後うつや夜の営みなど、普段なかなか人に相談しづらい問題を、笑いを交えながら話し合いました。



## 西原から世界へ！ビーチバレー選手が西原町で腕を磨く

ビーチバレーで国際的に活躍している浅尾美和・浦田景子選手と井上真弥・長谷川徳海選手のペアが西原マリパークで合宿を行い、2月16日に上岡明町長を表敬訪問しました。

2年ぶりに本町で合宿をする浅尾選手は、今年ペアを結成したばかりの浦田選手とともに、「西原に戻ってこられて嬉しい。冬の練習には最適な環境で、新しいペアの連携を高めたい。」とコメントしました。2010年シーズンに日本一となり、アジア大会にも出場した井上・長谷川ペアは「オリンピックを目指すため、腕を磨きたい。」と力強く今年の抱負を語りました。



## 小波津団地自治会が35周年を迎える

小波津団地自治会が35周年を迎え、2月19日に小波津団地自治会ふれあいセンターで記念式典と祝賀会が開催されました。

小波津団地は沖縄県住宅供給公社によって1973年から宅地が造成され、近隣市町村から転入してきたことで作られた地域です。77年に260戸で自治会が結成され、今年35年の節目を迎えました。

式典で石川清勝会長は「先輩方の功績や近隣自治会の協力で発展することができた。まだ35年の歴史だが、これから築き上げられる団地の伝統を子どもたちに託したい。」とあいさつしました。また、未来への抱負として、自治会と同じ35歳の金城豊さんが「団地に住み始めた先輩方が、『ここがふるさと』と胸を張って言えるように地域づくりをがんばったと思う。後世に引き継いでいけるよう、これからは自分たちが地域の先頭に立っていきたい。」と力強く語りました。

同自治会では関連事業として、35年の歴史を振りかえる「あんやたん写真展」を、2月5日から15日に開催しました。



## 西原中から花いっぱいの地域づくりを発信

まちの緑化を図るとともに、花作りを通じて地域づくりに参加することを目的に「フラワータウンプロジェクト」が西原中で実施され、38通り会などへの贈呈式が2月27日に行われました。

この事業は同中学校の生徒が育てた花のプランターを地域に提供して、店先などで育ててもらうことで地域の緑化を図り、花を通して生徒と地域の交流を育むことを目指して実施されたものです。この日は、生徒のメッセージが書かれた約400個のプランターが通り会や自治会などに贈呈されました。

贈呈式で平良嘉男校長は「今まちづくりを支えている人たちの次を背負って立つのは君たち。プロジェクトを通じて、自分たちの時代はどんな町にしようか考えてみてほしい。」と生徒たちに事業の意義を語りました。また同事業は、サンエー西原シティなどの町内企業・各種団体が資材を提供して実現したとのこと。平良校長は「事業の理解と多大な協力をいただいた。」と感謝を述べました。



## FC琉球が西原町でフレンドリーマッチ

沖縄にプロサッカーチームのキャンプを誘致する「美ら島サッカーキャンプ」プロジェクトの一環として、2月13日に西原町民陸上競技場でFC琉球と水原三星ブルーウィングス（韓国プロサッカーチーム）のトレーニングマッチが開催されました。水原三星は2月に町内の東崎公園と町民陸上競技場をキャンプ地として滞在しており、そのトレーニングとして試合が行われました。

試合前には、上岡明町長から激励のあいさつと花束が贈られ、両チームの選手を歓迎しました。無料で解放されたスタンドには多くのファンや町民が観戦に訪れ、選手のプレーに歓声を送りました。

